

「質の高いインフラの推進に関するセミナー」

(4月12日(木), 於: イイノホール)

堀井巖政務官ステートメント

グリア (Angel Gurría) OECD 事務総長,
ご列席の皆様,

1. 質の高いインフラ推進の背景

本日は、「質の高いインフラの推進に関するセミナー」にご出席頂き、誠にありがとうございます。

世界経済は堅固な成長を続けています。その下支えとなっているのが、国家や地域間を連結する、交通、エネルギー、通信等の様々なインフラです。戦後の日本や近年のアジア諸国の成長経験に照らしても、インフラ整備は、貧困から脱出し、包摂的かつ持続可能な成長を実現するための必要不可欠な要素であると言えます。

世界経済の成長及び開発需要の高まりにより、インフラ需要は増大しています。世界銀行は、2040年までに世界のインフラ需要は94兆ドルに達する一方、同年には18兆ドルのインフラ開発資金が不足すると予測しています。

また、インフラ需要を満たすに当たって、どのようなインフラであっても良いという訳ではありません。国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」でも質の高いインフラ整備の重要性が謳われていますが、質の低いインフラは、持続可能な成長の妨げとなるばかりか、ボトルネックとなりかねません。

膨大な開発需要に対して、包摂的かつ持続可能な成長に資する質の高いインフラ整備をもって応えることは、今や国際社会の主要な課題の一つとなっております。

2. 日本の対応

日本は、この課題に質と量の両側面から対応しております。「質の高いインフラ輸出拡大イニシアティブ」を通じて、2017～21年の5年間で200

0億ドルのインフラ開発資金を供給し、世界のインフラ需要に対応しています。更に、公的資金に限らず、民間資金を動員する公的ツールであるP S I（民間セクターツール）やP P P（パブリック・プライベート・パートナーシップ）を通じた民間セクターとの協力、協調融資等の活用を通じた国際開発金融機関（M D B s）との協力を積極的に推進しております。

また、我が国は、質の高いインフラの重要性に対する国際認識を醸成するため、2016年に、G7議長国として「質の高いインフラ投資促進のためのG7伊勢志摩原則」を取りまとめました。また、質の高いインフラの国際スタンダード化を進めるべく、近くOECDへ拠出を行います。グリア事務総長の強力なリーダーシップの下、OECDの貢献に強く期待しています。今後とも、OECDをはじめ関係機関や関係各国と協力し、質の高いインフラ概念の更なる普及に尽力していく考えです。

高まるインフラ需要への対応は、伝統的なドナーのみの取組では十分ではなく、新興ドナーを含め、国際社会全体の課題です。よって、持続可能な開発に資する質の高いインフラの「国際スタンダード」とは何か、その基本理念及び構成要素について、国際的な共通認識を確立することが重要です。

また、開発現場の視点から、ライフサイクル・コストから見た経済性、効果的な資金動員と財政健全性、技術移転や現地雇用など、如何にしてインフラ整備を被援助国の持続可能な成長に資するものとするかについて議論を行い、如何にインフラの開放性と平和的利用を確保し、地域・国際社会との連結性を強化するかについて認識を共有することも重要です。

本日の国際セミナーが、援助国、被援助国、国際開発金融機関、民間企業等の幅広い関係者が「質の高いインフラ」の基本理念や構成要素につき、それぞれの御経験や御知見を踏まえながら議論を行うことにより、共通認識を醸成し、対外的に発信する場となることを祈念しつつ、私の冒頭挨拶とさせていただきます。

以上